

地理歴史科（歴史総合） 学習指導案

授業者：
指導教諭：

日時：令和4年9月14日（水）

学級：第1学年3組（男子18名、女子22名計40名）

1. 授業単元名 国際平和と安全保障

教材：山川出版社 「歴史総合 近代から現代へ」 p.112～113
「パリ講和会議と国際連盟の成立」
プリント教材

2. 指導計画

パリ講和会議と国際連盟の成立（2時間）（本時）
ワシントン会議（1時間）
1920年代の西ヨーロッパ諸国（2時間）
国際協調の模索（1時間）

3. 単元の目標と評価規準

（1）単元の目標

- ・第一次世界大戦の原因や概要について理解し、帝国主義などの背景や民族問題にも興味・関心を持つ。
- ・ヴェルサイユ体制によって形成された国際秩序と、国際社会や各国に生じた政治・社会・文化の変化について、資料を読み取り、理解する。
- ・新しい国際秩序と大衆社会の特徴について考察し、みずからの言葉で表現する。
- ・ヴェルサイユ体制に基づく国際秩序の成立と、20世紀前半における国際秩序の形成が、現代社会に与えた影響と課題について追究しようとしている。

4. 本時の単元（題材）設定の理由

（1）生徒観

○本学級は、学習に前向きに取り組もうとする生徒が多い。高校1年生ということもあり、中学校で学んだ内容と高校での新たな学びを結びつけ、学習する意義を見出している。提示した課題に対しても、真摯に取り組む姿も見られた。クラスによっては緊張している生徒も多く、学級内での交流活動に消極的な場面も見られることもあるが、当クラスは学級内の人間関係もある程度深まっており、ペア学習やグループ学習に対して積極的に取り組める生徒が多い印象を受けた。

一方で、既習事項を活用して自分なりに解答を出すことが求められるいわゆる講義型学習・授業に苦手意識をもつ生徒が少数見受けられた。さらに、与えられた学習課題や得られた学びから新たな疑問や関心を持ち、さらに探究する姿があまり見られず、「主体的な学び」の実現に向けて改善すべき課題と考えられる。

これらの課題を改善するためには、生徒のもつ良さを活かし、学級の仲間同士で学習課題への取り組み方について共有したり、教え合ったりすることが有効であると考え。また、生徒の関心を引き出し、さらに問いを生み出すような教材や指導の工夫も必要であると考え。本単元においては、「主体的な学び」の考えに基づいた授業を展開する中で、それらを実現し、生徒への授業につなげていきたい。

(2) 単元・教材観

○大戦に関わった国の参戦理由や動向、戦後の対策などについて教科書だけでなく、教師側の発問に対して生徒側で調べ学習をすることで用意した資料や情報を生かして学習する。

国際連盟の立ち上げ、ヨーロッパ地域の民族自決など、平和に向けて世界が動き始める様子が見られる。しかし、国際連盟やさまざまな軍縮会議といった活動は第二次世界大戦を防ぐことができず、再び大きな戦争へと進んでいった。本授業では、「国際連盟」に焦点を当て、世界平和を維持するはずであった機関の問題点、現在の国際連合と比較し、第一次世界大戦後の情勢を考察させたい。

(3) 指導観

○世界の歴史の大きな枠組みと流れを理解させ、歴史を学ぶ意義を実感させたい。そのために、適切な学習主題を設定し、探究する学習を一層重視して、世界史の学び方や歴史的思考力を培う。多面的・多角的に考察し、協力して活動することで、自分の考えをまとめ、豊かな表現を望みたい。

授業内で生徒が主体的に学ぶことが大切だと感じた。ただ知識を学習するだけでなく、事前に予想することで自分の考えを持たせる。本時の学習で要点を押さえた後、それをふまえてより自分の考えを深めることが学びに有効であると考え。また、班での活動が単なる調べる時間にならないよう、自分の意見・考えを持たせたい。班活動を行うよう導くことが望まれる。班での活動では6~7人班など、班員全員が意見を言える環境づくりを行う。教師が本時の中で机間指導を行い、必要に応じて助言を行う。

5. 学習指導

(1) 本時の目標

〈思考・主体的な学び〉

- ・国際連盟の抱えた課題や問題点に気づき、自分の言葉で説明している。
- ・第一次世界大戦の背景、戦後の国際協調の動きを通して、世界の動きを多面的に考察している。

〈知識・技能〉

- ・大戦後のヨーロッパの変化を ICT を活用して自身で発見し、資料から読み取っている。
- ・第一次世界大戦前後の国際情勢に関する諸資料を自身で調査・活用し、追究した過程や結果を読み取ることができている。

(2) 本時の展開

本時の学習指導

過程	学習活動	学習内容	○指導上の留意点 【知・技】 主体 【思考】 評価規準 【評価方法】
導入(5分)	1. 前回の内容を復習する。	<ul style="list-style-type: none"> ・前回、戦後に行われた会議とドイツに対しての措置がどのようなものであったか、この会議に世界がどのような反応を示したかを考える。 ・ワークシート内の問題を回答する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・敗戦国、戦勝国を振り返る。 ○戦後、どのような出来事があったかを教科書や資料集を使用せずに考えさせる。
展開(35分)	<p>2. パリ講和会議から生まれた国際連盟の誕生と成果について学び、国際連盟の抱えた問題点について考える。(25分)</p> <p>3. グループワークでまとめた内容を発表する。(10分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・第一次世界大戦後に締結したヴェルサイユ条約を資料・前回のプリントで確認する。 ・国際連盟の成り立ちの概要を学習する。 ・国際連盟がなぜ誕生したのか、その結果どのような良い影響があったのか、また国際連盟の抱えていた問題が何であったのか、教科書や資料集を活用しながら調べ、文にまとめる。その後、班で考え、まとめる。 ・発展問題として、アメリカが国際連盟に非加盟であることの問題点を思考する。→ワークシート内にまとめ、全体で共有する。 ・実際にどのような問題点があったかを生徒の発表を踏まえて説明を受ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ウィルソン大統領が唱えた「十四か条」にふれる。 ○発表形態 5～6班全員に代表者1名を決め、発表してもらう。 (発表時間1分程度) ○1分程度の内容にまとめられるよう注意喚起をする。 ○6～7名での班活動とし、活動中は机間巡視をし、声掛けやアドバイスをを行う。 ○作業開始後に「第一次世界大戦以降、大きな戦争は二度と起きなかったか？」といった助けとなる発問をする。そこから国際連盟の抱えていた問題について班で考えさせる。 ○発表内容を踏まえて、必要に応じて補足する。 <p>【思考】問題の把握・記述【ワークシート】</p>
まとめ(5分)	4. まとめ・次回の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・第一次世界大戦後、ヨーロッパ各国はどのような変化を遂げようとしたかを文章にまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ワークシートに2行程でまとめさせる。 ○時間があれば、生徒2・3名に発表してもらう。 【技】ヨーロッパの変化の読み取り【ワークシート】

5, 板書案

◎第一次世界大戦後、世界は敗戦国をどう扱ったのか? ~2~
十四か条の平和原則に基づき、「①国際連盟」が1920年に設立

(本部: スイス・ジュネーブ)

イギリス・フランス・日本などを含め42か国が加盟。

…アメリカは非加盟

☆国際連盟について調べよう

①国際連盟はどのような問題点をもっていたのか?

生徒の意見書き込み

②国際連盟と国際連合はどのような点が異なるのか?

国際連盟 | 国際連合

生徒の意見書き込み

(発展問題) アメリカが国際連盟に非加盟であることがなぜ問題だったのか?

生徒の意見書き込み

講和会議ではヴェルサイユ条約以外にも敗戦国と様々な条約を締結

(内容: 賠償金支払い・領土割譲など)

ヴェルサイユ条約から始まった国際秩序体制

…「②ヴェルサイユ体制」ヨーロッパの戦後秩序の確立

・ソヴィエト連邦の誕生

・日米の国際的地位の向上、

・ヨーロッパなどの平和志向の強まり など、

第一次世界大戦以後、世界情勢は大きく変化していく!

○今回のまとめ